

家庭学習を習慣化することので育つ 「自己マネジメント力」を生涯の宝に

早稲田大教職大学院教授 田中博之

なぜ、今、家庭学習が改めて注目されているのか。早稲田大教職大学院の田中博之教授が、家庭学習が学力向上に結び付くメカニズムを分かりやすく解説し、今後の家庭学習指導のあり方を提示する。

●家庭学習が注目される理由

社会や家庭環境の変化により 家庭学習がますます重要に

学力向上のキーワードとして、家庭学習が改めて注目されています。もちろん、昔から家庭学習は重視されてきましたが、近年、子どもをめぐる環境の変化に伴って、家庭学習のあり方を再考する必要が生じています。

2003・06年のいわゆるPISAショックでは、日本の子どもの読解力の低さが指摘されました。新課程への移行により、活用力を育む授業が増えていますが、ただ授業を受けて身に聞くだけでは学力がなかなか高まらない状況を踏まえ、家庭学習に目が向けられて

いるのです。

家庭学習指導の見直しが求められる理由の1つに家庭環境の変化があります。今は保護者がテレビやスマートフォン、ゲームなどを頻繁に使い、新聞や本を読まなくなっています。この状況は、子どもにも波及し、学びに向かいにくい環境になってきています。

保護者の宿題に対する考え方の変化を、肌で感じている先生方も多いでしょう。共働き家庭の増加などもあって、保護者が支援しなければならぬような宿題は好まれない傾向が見られます。また、塾の宿題をする時間のために、学校の宿題を減らすように要望する保護者もいます。

こうした状況の変化に、小学校も対応して

きました。「家庭学習の手引き」などを始めた保護者への働き掛けにより、子どもたちも「早寝早起き朝ごはん」「宿題はきちんとやる」という意識が高まっています。更に、「家庭学習ノート」の取り組みが全国に広がるなど、家庭学習指導にも変化が見られます。しかし、家庭学習にはまだ改善の余地があります。「宿題には取り組んでも、『自ら学ぶ家庭学習』はしない」という子どもが多数である状況を変えなくてはなりません。

私も監修にかかわった『学力向上のための基本調査2008』（ベネッセ教育総合研究所）でも、「テレビやラジオをつけないで集中して学習を行っている」「宿題を期日までやり遂げる」「得意分野をさらに伸ばすた

家庭学習で学ぶ意欲を伸ばす



たなか・ひろゆき◎大阪大
大学院人間科学研究科博士
後期課程中退。大阪教育大
教授を経て、2009年4
月より現職。文部科学省「全
国学力・学習状況調査」の分
析・活用の推進に関する専
門家検討会議「委員も務め
る。著書に、『学級力向上
プロジェクト』（金子書房）な
ど。

めに自主的な学習を行っている」など、基本的な生活習慣や学習習慣が達成できている子どもほど、学力が高いというデータが出ています。いずれも特別な内容ではありませんが、現状は十分に達成されているとはいえません。

●家庭学習指導のポイント

フィニッシュの指導に学ぶが 活用学習を深める宿題

こうした課題を踏まえ、家庭学習を学力向上に効果的に結び付ける指導について考えていきたいと思います。

前提として、家庭学習と授業の内容をリンクさせなければ、学力は十分に高まりません。両者のリンクにより、大きく分けて、①基礎・

基本の定着、②活用型学力の育成、③自己マネジメント力の育成が期待されます。

①は、ドリル学習などによって促されるもので、いわば従来型の宿題といえます。②に關してというと、授業では活用型の学習が徐々に増えていますが、家庭学習とはうまくリンクされていません。そして、③はほとんど手が付けられていない状況といえるでしょう。

①は既に多くの学校が取り組んでいますので、②活用型学力の育成から説明します。

新課程への移行に伴い、各教科で言語活動を軸とした活用型学力の育成が進められています。例を挙げれば、国語では、読解して終わるのではなく、実際に物語や説明文を書いたり説明したり、思考や表現をする学習が取

り入れられるようになりました。

こうした活用学習が抱える大きな課題が、授業だけでは時間が足りないことです。そのため、「調べ、考え、書く」を中心とした活用型宿題によって補完する必要があると考えています。活用型宿題が一般的なフィニッシュの数の指導例を紹介します。

私が現地で視察した2年生のクラス（年齢的には日本の3年生）では、子どもが作問をする宿題が出されていました。自分で問題をつくる学習は、理解を深めると共に、思考力や表現力を高める効果が期待できます。

ある子どもは、「ペットショップで30ユーロの犬2匹、20ユーロの猫2匹を買いました。払ったお金はいくら？」という問題を、文章と絵で表しました。授業ではこうした問題を発表し合い、クラスみんなで式や答えを考えます。

ユニークな発想だと感心したのが、ある子どもの「てんとう虫が10匹、クモが5匹、ヘビが10匹、歩いてきました。全部で足は何本？」という問題です。ヘビは足がないので、0本として計算します。これには先生も児童も面白がり、授業が大変盛り上がりました。

フィニッシュは、日本より授業時間が限られていますが、こうした宿題に活用学習の「エクササイズ」としての働きを持たせることで、協同して考える喜びを生み出し、豊かな学びを成立させています。

「総合的な学習の時間」を使い 自己マネジメント力を育てたい

次に、③自己マネジメント力の育成の説明をします。自己マネジメントとは、子どもが自分の学習と生活の実態を自覚して、目標を設定したり、進捗状況を記録したりして、自己学習を改善していくことです。「教師」というペースメーカーがいない環境で、自分で学習計画を作成・実行し、振り返ったり、学習姿勢や生活態度などの自己点検を繰り返したりすることで、次第に自分をマネジメントして成長していく力が育ちます。こうした力は生涯にわたる宝になります。自己点検を日常的に取り入れることを強く提案します。

ただし、自己マネジメント力は、子どもに任せているだけでは育ちません。私は、図1のようなチェックリストを用いて、「総合的な学習の時間」の10時間程を使って取り組むことを提案します。グループ活動による相互評価を取り入れると、自分を見つめ直したり、友だちと認め合ったりする機会になりますし、先生がチェックする負担も軽減されます。自己マネジメント力の育成では、発達段階に応じた指導方法に留意してください。指導が丁寧なのは良いのですが、お膳立てしすぎると主体性が育ちにくいことがあります。低学年は、先生に促されて取り組むうちに自分のものとして獲得していく時期ですか

図1 家庭学習力の自己点検チェックリスト

家庭学習力アンケート		年 組 番
第 回 (月)		名前
<p>◎ このアンケートは、自分の家庭学習をよりよくするために、自分の家での勉強や生活のよすをふり返るものです。それぞれの項目の4～1の数字のあてはまるところに、一つずつ○をつけましょう。学校の成績とは関係ありませんから、ありのままを答えてください。</p> <p>4：とてもあてはまる 3：少しあてはまる 2：あまりあてはまらない 1：まったくあてはまらない</p>		
学習習慣（大切な学習を、こつこつ続ける力）		
①宿題	学校の宿題を全部やりとげて、提出日に先生に出しています。	4-3-2-1
②習慣	家庭学習の時間と内容を決めて、毎日こつこつと取り組んでいます。	4-3-2-1
③復習	学校の授業で学んだことを、家に帰ってから復習しています。	4-3-2-1
生活習慣（規則正しく健康な生活をする力）		
④時間	一日にテレビを見る時間や、ゲームやメールをする時間を決めています。	4-3-2-1
⑤睡眠	毎日、早寝早起きをしています。	4-3-2-1
⑥食事	毎日ほとんど同じ時刻に、朝ご飯と晩ご飯を食べています。	4-3-2-1
自律心（自分から進んでとりくむ力）		
⑦準備	次の日の授業に必要な教科書やノートなどは前日の夜に、自分で準備しています。	4-3-2-1
⑧整理	家では学習をしている場所を整理し、いらぬものはかたづけしています。	4-3-2-1
⑨自律	学校の先生やお家の人にいわなくても、自分から進んで家庭学習をしています。	4-3-2-1
⑩準備	自分の家庭学習で、できているところとできていないところのわががわがわがしています。	4-3-2-1
⑪準備	自分の得意なことを伸ばすために、宿題のほかに自分から進んで家で学習しています。	4-3-2-1
⑫準備	将来やりたい仕事や行きたい学校の夢をもって、家で学習をしています	4-3-2-1

田中先生作成の家庭学習力アンケート。2枚目には自己学習力、自己コントロール力、自己マネジメント力、生涯学習力、自己成長力があり、各3項目をチェックする。

*アンケートはベネッセ教育総合研究所のウェブサイトからダウンロードできます
<http://berd.benesse.jp> → HOME > 教育情報誌（小学校向け）

ら、自己マネジメント力よりも、「宿題をきちんとやる」「字は丁寧に書く」「姿勢を正しく」「発表は大きな声で」といった基本的な学習姿勢の育成に努めるとよいでしょう。中学年から、自己マネジメント力の指導を徐々に取り入れます。3年生は計画性や自分を振り返る力が十分に育っていませんから、保護者の協力を得ながら進めます。すぐに効果は表れませんが、じわじわと力を伸ばす気持ちで取り組んでください。高学年になると、自己点検は大切だと理解しながら、それを面倒だと感じる子どもが現れます。ですので、こうした活動を純粋に「楽

しい」と感じる中学年から始めることで、子どもは自己点検が将来必要な力であることをよく理解して前向きに取り組めるでしょう。更に進めて、中学校でも取り組みを共有したいところです。小中連携のねらいの1つは、9カ年を通して家庭学習力を育てることだと、私は考えています。

● 保護者への働き掛け 家庭学習を支援する 保護者の3つの教育的機能

家庭学習の効果を高めるためには、子どもの応援者である保護者の支援が欠かせませ

家庭学習で学ぶ意欲を伸ばす

ん。家庭学習を支える保護者の教育的機能には、「ペースメーカー」「サポーター」「ファシリテーター」の3つがあります。

ペースメーカーは、学習を促したり、生活環境を整えたりすることで、規則正しい学習や生活の習慣形成を支援することです。サポーターは、子どもが学習から逃げたくなったり、自信をなくしたりした時に、アドバイスしたり話し相手になったりして、心の支えになることです。また、ファシリテーターは、教材の準備や学習スペースの確保、静寂な時間の保障などの条件整備を通して、良好な学習環境を構成することです。

保護者に働き掛ける際は、以上の3つを分かりやすく説明するとよいでしょう。入学時にしっかりとお願いして、小学生の保護者としての自覚を促すと効果的です。

●学校にしかできないこと

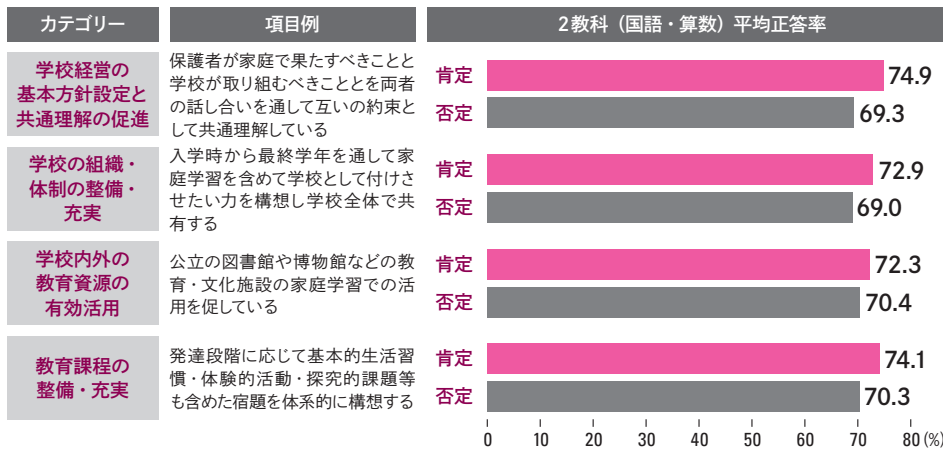
「自覚を促す」「自分で自律性や自主性が高まる」

家庭学習は、家庭に任せられる部分が多く、また学習指導要領で指導法が明示されているものでもないため、価値観をしっかりと持たないと取り組みが揺らいでしまいます。また、保護者は、学級や学年による指導のばらつきに不安を感じます。そのため、家庭学習指導は、校長先生のリーダーシップの下、学校として統一的な基準を設けて取り組んでくださ

い。校長先生が「家庭学習の充実」に取り組んでいる学校ほど教科学力が高いという調査結果もあります(図2)。

これまで話してきたように、家庭学習のねらいは基礎・基本の習熟にとどまらず、授業とリンクさせて教育効果を高めたり、自己マネジメント力を育てたりすることにありま

図2 「家庭学習の充実の取り組み」項目の校長による肯定・否定と子どもの教科学力との関係(小学校)



出典/ベネッセ教育総合研究所「学力向上のための基本調査 2008」

特集取材を終えて

家庭学習の時間は増えているが、質はどうか。これが今回の特集テーマの出発点です。先生方の声からは、反復練習が中心である宿題の内容にもう一步踏み込みたいけれど、家庭の考えもあるので手を付けにくいという様子がかがえました。取材した各校で共通に挙げられた課題は、宿題には取り組むが、自分でもっと学ぶ「意欲」がないという子どもの姿でした。学ぶ意欲を伸ばすために生活習慣の確立や基礎・基本の習熟は欠かせず、小学校でも熱心にご指導されていると思います。今後はそれらに加え、例えば「自学ノート」や「自己チェック」など、より自らの気付きを促すような家庭学習指導の工夫が求められるように感じました。

VIEW21 小学版編集長 杉田美穂

す。そのような観点から、学校においても家庭での学習の仕方や意欲の持ち方などを教えていくことが、小学校教師の大切な役割です。これからの社会を生きていく上で、自己マネジメント力は極めて重要な力となります。保護者にも、「勉強だけ出来ればよい」のではなく、深い愛情の下に必要な場面では厳しく接して、子どもの自律性や自主性を高めるように、学校からよく伝えてください。自己マネジメント力は、強制して育つものではありません。前述した自己点検チェックリストのように、「自覚を促す」「気付かせる」といった視点から、子どもの心に働き掛ける指導を進めていただきたいと思います。